

1 はじめに

小規模校では、児童が同年齢集団での多様な学び、関わりを体験できる場面をつくり出していくことが課題の一つとして挙げられる。そこで近隣校と連携して行う交流学习は、多様な人との関わりを通して、児童の豊かな人間性や社会性を育む貴重な場となっている。

ここでは、本校が近隣の4校と協力し実践している交流学习について簡単に紹介する。

2 交流学习の目的

普段の少人数、複式の授業では経験することができない、多人数による学習を構成することにより、練り合ったり、競い合ったり、協力し合ったりする学習を展開させる。

他校児童と交流を深めるとともに、日常の固定された人間関係を見直すきっかけをつくる。教員同士で指導法を学び合うとともに、相互の交流を図る。

3 交流学习の概要

低・中・高学年部ごとに交流学习を実施する。

(年度初めに、4校の教員が集まって計画を立てる。単学年での交流学习も実施できるように配慮する。)

学期ごとに1回、年3回実施。1回に2時間、または4時間の学習を行う。

(可能であれば、回数・時間は増やせるとよい。)

会場は各校が順に持ち回る。会場となった学校の教員が中心となって準備をしておき、当日は各学年部ごとに協力して実施する。

(役割分担の入った略案程度の指導案を作成し、事前にメール等で配付しておく。)

交流学习の移動手段は町のマイクロバスを利用する。

(町教委等の理解・協力を得ることで、バスを出す時間や回数も配慮してもらえる。)

学習内容例(中学年)

- ・ 3・4年 音楽 「うたっておどろう」 / 「ミニコンサートをしよう」
- ・ 3・4年 学級活動 「みんな、ともだち」
- ・ 3・4年 体育 「ドッジボール」 / 「サッカー」
- ・ 3年 国語 「カンジーはかせの音訓遊び歌」
- ・ 4年 国語 「いろいろな意味をもつ言葉」



写真1 3・4年生体育科 ドッジボール



写真2 4年生国語科 いろいろな意味をもつ言葉

#### 4 交流学习の主な成果

交流学习の回数を重ねるにつれ、いろいろな児童が積極的に発言できるようになり、多様な意見交換ができた。

国語の授業では、いつもより様々な意見が出てきて効果的な学習となった。

体育科では、多人数で行うゲーム的な活動が特に効果的であった。チームプレーや協力し合うことの大切さに加え、全力で競い合うというゲーム本来の楽しさを体験でき、よい刺激となった。

他校の友達に会えるのをとても楽しみにしており、休憩時間や昼食の時間も含めて交流が深まった。

業間の休み時間や清掃の時間等を利用して移動したため、授業時間を変更することなく実施できた。

修学旅行、少年自然の家での集団宿泊体験を4校連合で実施している。事前に交流学习の場を生かして仲間づくりをしたり、共通理解を図ったりしたところ、初対面での活動に比べ、児童たちは仲よく話したり協力したりでき、以前よりも充実した活動が行われた。

#### 5 交流学习の主な課題、改善点

活動によって、人数の多い学校の雰囲気にならされてしまい、消極的な活動となってしまった児童がいた。状況を見極めて、教師が関わることも大切である。

会場校の負担が大きいため、打合せも含め、参加校の支援の在り方を考える必要がある。

少人数を前提に設計されている校舎であり、活動内容によっては制約が生じたり、机、椅子などの設備面での工夫が必要であったり、安全面への配慮を要するなど事前の確認、準備が大切である。

教師の急な出張や学校行事等が入ってくることがあり、4校での日程調整や役割分担の変更など対応に苦慮することもあった。

各校の年間指導計画や学習進度を合わせるなど工夫していくことで、さらにいろいろな教科や内容で効果的な学習が期待できる。